

2020年6月9日 第326号

# 憲法共同センターNEWS

戦争する国づくりストップ！憲法を守り・いかす共同センター  
〒113-8462 文京区湯島 2-4-4 全労連会館 03-5842-5611 (FAX 5842-5620)  
<http://www.kyodo-center.jp> mail: [move@zenroren.gr.jp](mailto:move@zenroren.gr.jp)

## 憲法共同センター「9の日」宣伝

## コロナ禍で憲法の重要性が明らかに

## 軍事費よりもコロナ対策、憲法を生かした政治に!

憲法共同センターは6月9日昼、新宿駅西口で「9の日」宣伝を行い、7団体22人が参加しました。「改憲発議に反対する全国緊急署名」は20人の方にご協力いただきました。



日本共産党・本村伸子衆議院議員がトップでマイクを握り訴え。沖縄県議選で日本共産党が過去最高の7議席を獲得したことを紹介。「辺野古新基地建設に2兆5500億円を使うなら、コロナで大変なくらしや健康のために使うべき。F35ステルス戦闘機を爆買いする税金をコロナで大変なくらしや営業を守る、医療を守るために使うことが当たり前ではないでしょうか」と指摘しました。

全国革新懇・五十嵐仁代表世話人は「コロナ禍で、憲法13条・個人の尊重、25条・生存権、29条・財産権の保障など憲法の重要性が明らかになった。憲法の理念、規定を生かすべき。憲法を変えるのではなく、政治を変えよう」と呼びかけました。

全労連・小田川義和議長は「第2次補正予算の3分の1の10兆円が予備費で、政府が使い方を勝手に決められるものだ。5兆円については、用途を示したようだが、それでも5兆円も予備費があり、ひどいことだ。5兆円について、ただちに第3次補正予算を提案すべき。それが議会制民主主義だ」と指摘。「安倍首相は、憲法に自衛隊の明記、緊急事態条項を入れようとしている。立憲主義を守れと言いたい。それができないのなら、今すぐ退陣すべきだ」と訴えました。

全日本医師連・木下興事務局次長は「自民党政権のもと、公衆衛生を軽視し1992年に852カ所あった保健所を2019年には472カ所にまで削減した。また、感染症対策を担う公立・公的病院を削減しようとしている。憲法を生かし、いのち・くらしを守り、市民が大切にされる政治を実現しよう」と呼びかけました。

憲法会議・高橋信一事務局長は「中小企業などへの持続化給付金をめぐって、一般社団法人・サービスデザイン推進協議会が受注した支給業務の大半が電通に再委託されていたことが問題になっている。『Go To キャンペーン』についても、運営事務の委託費が野党などから高すぎるなどという批判が出て、公募の手続きがいったん中止された。10兆円の予備費の問題では憲法83条の財政処理の基本原則に反する。おかしいことに声をあげれば政治は変えられる。安倍政権を倒そう」と訴えました。

全労連・長尾ゆり副議長は「空母や戦闘機、オスプレイでいのちは守れない。くらしや医療・公衆衛生の拡充にこそ税金を使うべき。主権者である国民がしっかり見張らなければならない。憲法を実現させよう」と訴えました。

## ●神奈川 憲法共同センター 桜木町駅前で宣伝

「一緒に立ってもいいですか」「Twitterを見て参加しました」

### 青年や女性が飛び入り参加

神奈川憲法共同センターは5月30日、  
全県一斉宣伝行動を計画していましたが  
「コロナ」の関係で観光スポット・桜木  
町駅前1カ所で宣伝行動を行いました。  
人出もあり、7団体15人がプラスターを  
かかげて「サヨナラ安倍政権」を訴えま  
した。

行き交う方々が手を振ったり、「がんば  
れ」や「そうだ」との声を受けたり、横  
断幕のQRコードを写メする若者、さらに  
「一緒に立ってもいいですか」と最後ま  
でプラスターを持ち続けた若者、

「Twitterを見て参加しました」と手作りプラカードを持参した女性などなど、驚くほどの反応が。

参加者からも「安倍政権への怒りを感じた」「やっぱりやってよかった」との声が聞かれました。  
これからも「#サヨナラ安倍政権」「#安倍政権を逃がすな」を街頭やネットで呼びかけます。



## ●埼玉

### オール埼玉総行動実行委員会 宣伝行動を動画配信

5月31日に10回目の1万人規模の総行動を計画していたオール埼玉総行動実行委員会は、「黙って中止するわけにはいかない」と、街宣行動を実施。浦和駅東口に集まった正副実行委員長と実行委員43人はモノトーンで服装を揃え、動画配信をしながら通行人へ安倍9条改憲反対と、コロナ対策について訴えました。

小出重義実行委員長はコロナ禍のどさくさの中で火事場泥棒的に改憲しようとする安倍政権を痛烈に批判し、弁護士会や労働団体からメッセージ、市民団体、医療関係者からも訴えがありました。じっと聞き入る市民が多数いました。



### 戦争させない埼玉の会

#### 怒りをマイクに飛び入りの女性も

戦争させない埼玉の会が「希望のエリア・埼玉ステージ」として、連休明けの5月8日から、「苦情が来ないかな？」と不安な中で再開した毎週金曜日の昼休み宣伝でしたが、予想以上の反響に確信を持ち、回を重ねるごとに参加者が増えています。ハンドマイクはボリュームを下げて優しい言葉で「みなさん、アベノマスクは届きましたか？10万円はどうですか？」と呼びかけると、首を横に振ったり、「まだだよ」と応える女子高生も。遠くの方からでも内容がわかるプラスターは大好評で、ゆっくり歩きながら、とじっと目で追っていきます。

そしてバックには、三味線、ハーモニカ、ウクレレが途切れなく音楽を流し、歌声の仲間が美しい歌声を披露してくれています。

先日は女性が署名机に駆け寄り「私は2カ月間も仕事がなく生きていけない。アベノマスクなんかいらぬから早く10万円が欲しい」と言ったのでマイクを渡すとその通り話してくれました。そこへ駆け寄った女性も緊急署名をしながら「とにかく安倍さんは早く辞めてほしい」と怒りをぶつけていました。今街頭で市民に訴えることはとても大切です。